

科目名	国語表現 I				担当者	
英文名	Japanese Composition and Rhetoric I					
単位数	2	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	1		教養・必修	教養・必修	教養・必修	教養・必修
授業形態	演習	科目ナンバー	SLR106・DLR106・HLR106・CLR106		卒業認定方針との関連	②
【到達目標】						
<ul style="list-style-type: none"> <li>・国語力や読解力、文章力を養い、大学・社会生活の基盤となる言語運用能力を高めることを目的とする。</li> <li>・自ら主体的に言語生活の充実を図るとともに、言葉に関する視野を広げ、実生活に活きて働く基本的なリテラシーを養う。</li> <li>・文章を読んだり書いたりすることを通して、批判的思考力を養う。</li> </ul>						
【ルーブリック（学修の到達レベル）】						
学修内容		理想的な到達レベル		標準的な到達レベル		未到達レベル
言語運用能力を高める		十分な言語運用能力を得られた		標準的な言語運用能力を得られた		十分な言語運用能力を得られなかった
言語に関するリテラシーを養う		十分な言語リテラシーを得られた		標準的な言語リテラシーを得られた		十分な言語リテラシーを得られなかった
批判的思考力を養う		十分な批判的思考力を習得できた		批判的思考力を習得できた		批判的思考力を身につけられなかった
【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学修】						
<b>第1回 オリエンテーション（授業概要理解・学習目標設定）</b> 【到達目標】 この授業の目的とねらい、学習方法を理解し、各自が学習目標を設定する。  【授業時間外学修】 授業内容を復習し、自身の立てた目標を達成するために必要なことをリストアップする。(4.0hr)				<b>第9回 文章力を身につける①（レポートの書き方）</b> 【到達目標】 ・構成について学ぶ。  【授業時間外学修】 新聞や書籍、インターネットなどからレポート執筆に必要な情報を集める。(4.0hr)		
<b>第2回 国語力（知識）を身につける①（敬語）</b> 【到達目標】 ・尊敬語、謙譲語、丁寧語の違いを理解する。  【授業時間外学修】 日常生活（他授業やアルバイト）での会話でも敬語を使えるようにする(4.0hr)				<b>第10回 文章力を身につける②（成文化）</b> 【到達目標】 ・根拠や理由で主張に肉付けする。  【授業時間外学修】 書き上がったレポートは少し時間を置いてから読み直して推敲する。(4.0hr)		
<b>第3回 国語力（知識）を身につける②（文法）</b> 【到達目標】 ・「ら抜き言葉」「さ入れ言葉」の使用を防ぐために、動詞と助動詞の活用について学ぶ。  【授業時間外学修】 テレビやインターネットの中の「ら抜き言葉」「さ入れ言葉」を探してみる(4.0hr)				<b>第11回 文章力を身につける③（接続詞）</b> 【到達目標】 ・接続詞や接続助詞の働きについて理解する。  【授業時間外学修】 新聞記事や評論を接続詞に注目して読む。(4.0hr)		
<b>第4回 国語力（知識）を身につける③（仮名遣い・語彙）</b> 【到達目標】 ・送り仮名などの仮名遣いについて理解し、適切に使えるようにする。  【授業時間外学修】 SPIに頻出する「二語の関係」の問題に取り組む。(4.0hr)				<b>第12回 文章力を身につける④（文構造）</b> 【到達目標】 ・主語述語を対応させて、文のねじれを防ぐ方法を学ぶ。  【授業時間外学修】 新聞記事や評論を主語述語に注目して読む。(4.0hr)		
<b>第5回 国語力（知識）を身につける④（手紙・メール）</b> 【到達目標】 ・手紙のマナーや書き方について理解を深める。 ・Eメールのマナーや書き方について理解する。  【授業時間外学修】 実際にEメールを作成してみる。(4.0hr)				<b>第13回 文章力を身につける⑤（反論）</b> 【到達目標】 ・他受講生が書いたレポートを読んで、気づいた点（良い点・疑問点・反論点・改善点など）を具体的に指摘できるようにする。  【授業時間外学修】 他受講生のレポートからの気づきを自分のレポートにも反映する。(4.0hr)		
<b>第6回 読解力を身につける①（文章整序・長文読解）</b> 【到達目標】 ・文章の構成について理解し、文章整序問題に取り組む。  【授業時間外学修】 新聞記事や他授業で用いる教科書、論文なども積極的に読んでみる。(4.0hr)				<b>第14回 文章力を身につける⑥（修正）</b> 【到達目標】 ・レポートを読んだ他受講生からの指摘をふまえ、レポートがより良くなるように修正する。  【授業時間外学修】 書き上がったレポートは少し時間を置いてから読み直して推敲する。(4.0hr)		
<b>第7回 読解力を身につける②（要約）</b> 【到達目標】 ・文章の話題を素早くつかみ、キーワードを押さえられるようにする。  【授業時間外学修】 新聞記事などの興味がある文章についても要約をしてみる。(4.0hr)				<b>第15回 目標達成度確認・国語表現IIへの課題</b> 【到達目標】 自己評価により目標達成度を測り、国語表現IIへの課題を確認する。  【授業時間外学修】 授業全体を振り返って、自己評価を行う。(4.0hr)		
<b>第8回 読解力を身につける③（根拠の検討、分析）</b> 【到達目標】 ・文章中の事実と意見を区別できるようにする。  【授業時間外学修】 教科書や論文などの文章についても分析をしてみる。(4.0hr)						
【学修上の留意点】						
ほぼ毎時間、小テストやレポート提出、意見交換が課され、出欠を兼ねる。本授業は演習科目であるため、全時間を通して、実践的・体験的に「聞く・話す・書く・読む」を総合的に学ぶ授業展開となっている。またグループ・ワークを積極的に取り入れるため、授業や課題に対する主体的な参加を求める。欠席は特別な場合を除いて原則として考慮しないので、欠席授業分の学習課題は必ず提出すること。新聞や文庫等のさまざまなメディアを活用した学習課題に取り組むが、授業時間だけでは足りないため、各自が学習課題に対する自習時間の確保に努めること。手元に辞書を用意し、すぐに意味が調べられるようにすること（電子辞書も可、オンラインならばコトバンクやWeblioなどを利用することを推奨）。						
【教科書・参考書など】						
教科書：授業内にて適宜、資料を配布する。 参考図書：『レポート・論文をさらによくする「書き直し」ガイド：大学生・大学院生のための自己点検法29』佐渡島紗織、坂本麻裕子、大野真澄編著（大修館書店）2015年、『レポート・論文をさらによくする「引用」ガイド』佐渡島紗織【ほか】著（大修館書店）2020年						
【成績評価方法】						
毎回の提出物やグループワークの取り組み60%、試験課題40%						

科目名	国語表現Ⅱ				担当者	
英文名	Japanese Composition and Rhetoric Ⅱ					
単位数	2	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	2		教養・必修	教養・必修	教養・必修	教養・必修
授業形態	演習	科目ナンバー	SLR201・DLR201・HLR201・CLR201		卒業認定方針との関連	②
【到達目標】						
<ul style="list-style-type: none"> <li>・国語表現Ⅰで培った国語力や読解力、文章力の基礎的・基本的な知識を基に、大学・社会生活の基盤となる言語運用能力の一層の伸長を図るとともに、アカデミック・ライティングについての学びを深める。</li> <li>・新聞やインターネットを活用し、メディア・リテラシーや情報リテラシーを身につける。</li> </ul>						
【ルーブリック（学修の到達レベル）】						
学修内容		理想的な到達レベル		標準的な到達レベル		未到達レベル
言語運用能力を高める		十分な言語運用能力を得られた		標準的な言語運用能力を得られた		十分な言語運用能力を得られなかった
言語に関するリテラシーを養う		十分な言語リテラシーを得られた		標準的な言語リテラシーを得られた		十分な言語リテラシーを得られなかった
アカデミック・ライティングについて		理解して活用できた		理解できた		理解できなかった
【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学修】						
<b>第1回 オリエンテーション（授業概要理解・学習目標設定）</b> 【到達目標】 国語表現Ⅰでの学習を振り返り、各自が学習目標を設定する。  【授業時間外学修】 興味や関心のある新聞記事を探す。(4.0hr)				<b>第9回 アカデミック・ライティングの基礎①（レポートの書き方）</b> 【到達目標】 ・構成について学ぶ。 ・構成メモ（設計図）を書く。  【授業時間外学修】 新聞や書籍、インターネットなどからレポート執筆に必要な情報を集める。(4.0hr)		
<b>第2回 国語力（知識）を身につける①（敬語）</b> 【到達目標】 ・尊敬語、謙譲語、丁寧語の違いを理解する。 ・場面ごとに敬語を適切に使えるようにする。  【授業時間外学修】 日常生活（他授業やアルバイト）での会話でも敬語を使えるようにする。(4.0hr)				<b>第10回 アカデミック・ライティングの基礎②（成文化）</b> 【到達目標】 ・根拠や理由で主張に肉付けする。 ・話し言葉や原稿用紙の使い方に注意してレポートを書き上げる。  【授業時間外学修】 書き上がったレポートは少し時間を置いてから読み直して推敲する。(4.0hr)		
<b>第3回 国語力（知識）を身につける②（文法）</b> 【到達目標】 ・「ら抜き言葉」「さ入れ言葉」の使用を防ぐために、動詞と助動詞の活用について学ぶ。 ・使役表現、可能表現を適切に使えるようにする。  【授業時間外学修】 テレビやインターネットの中の「ら抜き言葉」「さ入れ言葉」を探してみる。(4.0hr)				<b>第11回 文章力を身につける①（接続詞）</b> 【到達目標】 ・接続詞や接続助詞の働きについて理解する。 ・前後の文脈を考えて適切に接続詞・接続助詞を使えるようにする。  【授業時間外学修】 新聞記事や評論を接続詞に注目して読む。(4.0hr)		
<b>第4回 国語力（知識）を身につける③（仮名遣い・語彙）</b> 【到達目標】 ・送り仮名などの仮名遣いについて理解し、適切に使えるようにする。 ・語彙力を養うために、類義語や対義語などについて学ぶ。  【授業時間外学修】 SPIに頻出する「二語の関係」の問題に取り組む。(4.0hr)				<b>第12回 文章力を身につける②（文構造）</b> 【到達目標】 ・主語述語を対応させて、文のねじれを防ぐ方法を学ぶ。 ・修飾語について理解する。  【授業時間外学修】 新聞記事や評論を主語述語に注目して読む。(4.0hr)		
<b>第5回 読解力を身につける①（文章整序・長文読解）</b> 【到達目標】 ・文章の構成について理解し、文章整序問題に取り組む。 ・接続詞やキーワードについて学び、長文読解に取り組む。  【授業時間外学修】 新聞記事や他授業で用いる教科書なども積極的に読んでみる。(4.0hr)				<b>第13回 文章力を身につける③（反論）</b> 【到達目標】 ・他受講生が書いたレポートを読んで、気づいた点（良い点・疑問点・反論点・改善点など）を具体的に指摘できるようにする。  【授業時間外学修】 他受講生のレポートからの気づきを自分のレポートにも反映する。(4.0hr)		
<b>第6回 読解力を身につける②（専門的な文章を読む）</b> 【到達目標】 ・論文などの専門的な文章であっても、話題を素早くつかみ、キーワードを押さえられるようにする。  【授業時間外学修】 新聞記事や他授業で用いる教科書なども積極的に読んでみる。(4.0hr)				<b>第14回 文章力を身につける④（修正）</b> 【到達目標】 ・レポートを読んだ他受講生からの指摘をふまえ、レポートがより良くなるように修正する。  【授業時間外学修】 書き上がったレポートは少し時間を置いてから読み直して推敲する。(4.0hr)		
<b>第7回 読解力を身につける③（要約）</b> 【到達目標】 ・文章の話題を素早くつかみ、キーワードを押さえられるようにする。 ・文と文とのつながりを考えながら、一つの文章として読めるように要約する。  【授業時間外学修】 新聞記事などの興味がある文章についても要約を試みる。(4.0hr)				<b>第15回 目標達成度確認・今後の言語生活に向けて</b> 【到達目標】 自己評価により目標達成度を測り、今後の言語生活に対する見直しを持つ。  【授業時間外学修】 授業全体を振り返って、自己評価を行う。(4.0hr)		
<b>第8回 読解力を身につける④（根拠の検討、分析）</b> 【到達目標】 ・文章中の事実と意見を区別できるようにする。 ・客観的な事実・データを根拠にした理由に説得力があるか検討、分析する。  【授業時間外学修】 教科書や論文などの文章についても分析を試みる。(4.0hr)						
【学修上の留意点】						
ほぼ毎時間、小テストやレポート提出、意見交換が課され、出欠を兼ねる。本授業は演習科目であるため、全時間を通して、実践的・体験的に「聞く・話す・書く・読む」を総合的に学ぶ授業展開となっている。またグループ・ワークを積極的に取り入れるため、授業や課題に対する主体的な参加を求める。欠席は特別な場合を除いて原則として考慮しないので、欠席授業分の学習課題は必ず提出すること。新聞や文庫等のさまざまなメディアを活用した学習課題に取り組むが、授業時間だけでは足りないため、各自が学習課題に対する自習時間の確保に努めること。手元に辞書を用意し、すぐに意味が調べられるようにすること（電子辞書も可、オンラインならばコトバンクやWeblioなどを利用することを推奨）。						
【教科書・参考書など】						
教科書：授業内にて適宜、資料を配布する。 参考図書：『レポート・論文をさらによくする「書き直し」ガイド：大学生・大学院生のための自己点検法29』佐渡島紗織、坂本麻裕子、大野真澄編著（大修館書店）2015年、『レポート・論文をさらによくする「引用」ガイド』佐渡島紗織【ほか】著（大修館書店）2020年						
【成績評価方法】						
毎回の提出物やグループワークの取り組み60%、試験課題40%						